

世界基準をリードする生産地としての地位確立へ

世界に向けて発信を続けるWKPの上質な生地は、海外のラグジュアリーブランドから愛されてきました。しかし現場では、若手人材の不足により技術継承が難しくなっている現状に危機感を抱いています。今後も世界一のニットを和歌山で作り続けていくためには、ワールドスタンダードを満たしていくことが求められます。例えば、北欧でテキスタイルがサステナブルに対応していると認定されるためには、素材や製造工程だけでなく、労働環境、廃棄後に再利用できるかどうかまでが判断基準となります。今後、このような高い基準をクリアし、世界基準をリードする生産地として認定されれば、より強いブランド力をもってWKPを広げることができます。100年以上続く和歌山のものづくりは、過去の遺産ではなく、今も進化し続ける“世界レベルのニット産地”です。その価値を海の向こうで証明し、和歌山へ逆輸入することで、産地に新たな雇用を生み出したいと山下さんは未来を語ります。熟練の職人に直接話を聞ける距離の近さや、世界的なクリエイティブを実現できる環境を整えながら、この魅力的な産地の物語に挑み続けます。



株式会社エイガールズ 代表取締役社長 山下智広さん
1973年和歌山市生まれ。和歌山ニットの伝統と革新を担い、2017年に家業を継ぎ就任。
PVアワードグランプリ受賞を機に、和歌山ニットを世界級ブランドの舞台へと押し上げた実力者。
海外比率50%超の隠れグローバル企業として日本テキスタイルの未来を切り開くリーダー。



21

2026.1.1 発行
TAKE FREE

編集メンバーおすすめの一冊



The textile その一枚が、心を動かす。世界を動かす。

著者：梶原加奈子／出版社：アントレックス

服やタオル、鞆など、私たちの日常に欠かせないものを構成しているのがテキスタイル(布)です。生活に深く関わるテキスタイルは、単なる素材ではなく、長い歴史を紡ぎながらその役割を果たしてきました。本書では、その魅力や意義をさまざまな視点から対談形式で紹介しています。豊富な写真も掲載されており、読み終えた後は、自分のお気に入りを見つけにクローゼットを見返したくなる一冊です。

編集後記

2021年1月に和theを創刊してから、丸5年が経ちました。創刊号「手袋から始まるニットの可能性」から始まり、21号を数える今号では、原点に立ち返り、和歌山ニットの“ワザ”に迫りました。取材を通して、100年以上紡がれてきた文化や技術の背景には、そこに携わる方々の想いが息づいていることに、改めて気づかされました。最盛期から工場数は半以下になってしまったものの、確かに継承されてきたワザがあり、それが今、世界で認められていることはとても尊いことだと感じています。和歌山だけでなく、全国各地には素晴らしい産業や文化が、私たちの生活と近い距離で息づいています。身近な存在であるがゆえに、その価値を当たり前ものとして見過ごしてしまうことがあることもまた、今回の取材で学びました。和theは、その“当たり前”に光を当て、価値として届けていく存在でありたいと思います。



「和the」は和歌山市民図書館が発行する、まちの技・巧・匠を発信するフリーペーパーです。図書館がまちと接点をもち、まちが誇る文化や技術を発信しています。まだ知らない、ここ和歌山の魅力にぜひ触れてみてください。

和歌山市民図書館

WAKAYAMA CIVIC LIBRARY

〒640-8202 和歌山県和歌山市屏風丁17番地
開館時間/9:00~21:00 TEL/073-432-0010

和theバックナンバーは、図書館HPより
ご覧いただけます



ホームページ



Instagram



facebook



取材協力：株式会社エイガールズ 山下智広さん

和歌山市民図書館
WAKAYAMA CIVIC LIBRARY

世界に誇る 和歌山の 編みのワザ

和歌山が誇るワザ（技・巧・匠）を発信する、和歌山市民図書館のフリーペーパー『和 the』。Vol.21のテーマは「世界に誇る和歌山の“編み”のワザ」です。今回は、和歌山市の株式会社エイガールズ代表取締役社長・山下智広さん取材しました。2023年、和歌山市内のニット工場10社による共同プロジェクト「WAKAYAMA KNIT PROJECT（和歌山ニットプロジェクト、以下WKP）」を立ち上げ、Made in WAKAYAMAの価値を製品で表現し認知を広げることを目指して活動しています。世界のトップメゾンブランドから愛される生地を生み出し、地場産業を未来へつなぐ“編み”のワザに迫ります。



和歌山ニットとは

「ニット」と聞くと、毛糸で編まれた暖かい生地を思い浮かべる方も多いのではないでしょうか。しかし、ニットとは一本の糸をループ状に絡ませて「編む」技法で作られた生地全般を指します。そのため、Tシャツやスウェットもニットに含まれるのです。とくに和歌山は「丸編み」という技法によるニットの産地です。丸編みで作られた生地は縫い目がないため肌当たりが滑らかで、さらに伸縮性が高く、やわらかな風合いで、インナーウェアにも最適です。

歴史が作り上げた集積地で 獲得した世界一の称号

生地企画会社エイガールズのこだわりは、極上の肌触りです。その背景には、三葛の土地が紡いできた長い歴史があります。1909年にスイス製の丸編み機が導入されて以来、和歌山市は丸編みニット生地の全国シェア1位を誇る一大集積地となりました。とくに三葛地区には現在もニット関連企業が点在し、新旧の編み機が揃うことで多様な編み技術を有しています。さらに、熟練の職人の存在が、高品質な生地の追求を支えています。その結果、2017年には50か国以上から出展者が集まる世界最高峰の服地見本市でグランプリを受賞し、世界一の称号を獲得しました。

時代の変化を新たな 価値創造へとつなげる

グローバル化の進展により、国内ファッション産業の国産比率は低下し、産地や職人に根ざしたもののづくりは日本全国で衰退の傾向にあります。一方で、サステナビリティやエシカル消費への関心が高まり、「誰が」「どこで」「どうやって」作ったのかを重視する消費者やブランドが増えています。そこでWKPでは、産地全体でその価値を可視化し、技術や文化を再評価・継承することで、日本のものづくり・ファッション業界が抱える課題を新たな価値創造へとつなげようとしています。

多様な専門性を掛け合わせる

エイガールズはテキスタイルの企画・開発に専念し、そのほかの工程はグループ工場と分業しています。編み・染め・縫製・デザイン・企画・販売といった各工程で、それぞれの強みを掛け合わせることで、ハイクオリティなもののづくりを実現しています。

産地全体を ブランディングする

WKPでは、ニューヨークやパリ、東京など国内外でイベントを開催しています。単に良い生地をつくるだけでなく、産地の歴史や文化、職人の技術をブランドとして生産者自らが発信することで、商品にとどまらず「和歌山」という産地そのものを価値として伝えています。さらに、和歌山では工場見学のプログラムを導入するなど、イベントも開催地ごとに内容を調整し、国民性や美意識の違いを理解したアプローチを行っています。

肌触りで個性を表現する

WKPでは、エイガールズが開発した素材を各工場に編み、製品へと仕上げています。同じ素材でありながら、編み技術の違いによって仕上がりは多様です。エイガールズは、それぞれの編み機や職人の特徴を理解し、強みを引き出すことで、個性が際立つ一着へと仕上げています。こうして、企業単体では決して生まれなかった個性豊かな服が、WKPによって誕生しました。

ゆっくり 確実に編み上げる

生産性だけを重視すれば、最新の機械で高速に編み上げる方が効率的です。しかし、カシミアは細く柔らかいため、繊細で正確な動作ができる機械でなければなりません。歴史あるニット産地である三葛では、日本最古の100年以上前の編み機が今も稼働しており、これが極上の肌触りを生み出しています。今日も、1時間でわずか1mというゆっくりとしたスピードで、世界を魅了する一着を編み上げているのです。